

第1回吉田病院整備基本計画策定委員会 議事概要

1 日時

平成29年10月19日（木）17:00～18:30

2 場所

新潟大学医歯学総合病院 西病棟12階 小会議室
（新潟市中央区旭町通一番町754番地）

3 開会

○病院局長あいさつ

- ・吉田病院のあり方について、皆さま方からご検討いただき、平成29年3月に報告書をまとめさせていただいた。
- ・県央医療圏においては、県央基幹病院の整備が進んできている状況の中、吉田病院がどういう形で地域に貢献し、数少ない医療資源を有効に活用しながら、新しい病院としてスタートさせることができるか、昨年度のとりまとめ報告書を具体化させていくことについて、忌憚のないご意見をいただきたい。

4 議題

○委員長の選出

- ・新潟県病院局 下條文武参与を委員長に選出。

○協議の進め方（資料1）

- ・委員会開催は3回を予定、場合によっては第4回を開催する。
- ・その途中においてパブリックコメントを実施する。

○吉田病院あるべき姿の具体化（資料2）

【県央基幹病院との連携・協力体制】

- ・吉田病院と県央基幹病院の両方を上手く機能させるために、調和させながら両方にメリットのある医療提供体制の構築を模索しなければならない。
- ・今から県央基幹病院が開院する平成35年に向けてプランニングをして、関係者で共有する必要があるのではないか。
- ・吉田病院と県央基幹病院とをどういう風に調和をさせながら機能を発揮していくのか良く検討しなければならない。

【医師の確保】

- ・病院の機能や様々なことを考える中では、医師のキャリアや適正等についても考慮する必要があるため、どういう形が良いのかしっかり考えていかなければならない。

- ・医師派遣について、非常に厳しい状況であるが、吉田病院の特色ある医療について、どのような形で貢献できるのか十分検討させていただきたい。
- ・新しい病院をつくる上で、この 20 年間で、吉田病院の医師数及び患者数が減った理由を考えていく。それを踏まえて整備計画を検討することが極めて大事。
- ・医師のキャリアパスの中で、魅力的な組織、魅力的な病院とはどういうことなのか。地域密着型の病院を魅力的に感じる人もいることも踏まえて、考えていくと良いハーモニーが出来るかもしれない。
- ・医師が疲弊しないようにすることが重要。安定的に医療を提供するという方向で、様々な角度から大きく考えていくと答えが出るのではないかと。

【地域医療構想を踏まえた役割等】

- ・病院は地域の安心の象徴でもあり、身近な医療を提供する病院が1つになってしまうので、住民も燕市医師会も漠とした不安感を持っている。
- ・在宅医療は、燕市、燕市医師会、保健所と病院が一緒になって取り組んでいる。将来的な患者数は増えるというところで、どういう患者の質が増えていくのかを詳しく見て、医療提供体制を考えなければならない。
- ・今、燕市の2病院で500床あるが、極端に少なくなってしまうという不安感がある。
- ・平成47年までは1割くらい潜在患者が増えるデータがあり、それに対応していくためにも、吉田病院に対する期待は大きい。
- ・赤字体質の改善、持続可能な病院運営、スリム化といった説明があったが、医療については、他の病院との連携等で、確保される方向性で整理してもらいたい。
- ・小児医療など利益率が低い診療科目こそ、むしろ公立で賄う必要がある。公立病院が本来やるべきところを吉田病院は医療機能として確保すべき。
- ・地域医療構想では回復期病床はどの地域でも受け皿に困っている状況があり、そういった機能も果たす検討をする必要がある。
- ・二次救急病院としての体制整備や機能を果たすために検討をする必要がある。
- ・在宅医療を支援するため、患者が急変した時にいつでも受け入れできる病床を確保する機能も検討する必要がある。

5 その他

○今後の開催予定

第2回委員会は、後日、日程調整させていただく。

6 閉会